

## 上士幌町維管束植物目録補遺

丹羽 真一<sup>1)</sup>・渡辺 修<sup>1)</sup>・川辺 百樹<sup>2)</sup>・辻本 涼子<sup>3)</sup>

An addition to the list, "Vascular plants in Kamishihoro, Central Hokkaido, Japan"

NIWA Shin-ichi<sup>1)</sup>, WATANABE Osamu<sup>1)</sup>, KAWABE Momoki<sup>2)</sup>  
and TSUJIMOTO Ryoko<sup>3)</sup>

### はじめに

残された自然環境を効果的に保全するためには地域単位で保全計画を策定することが必要であり、そのためには各市町村での自然環境の把握が求められる。植物相に関しては、都道府県レベルではかなりの地域で編纂が進んでいる（鷲谷・矢原 1996の p 67を参照）。北海道に関しては伊藤・日野間・中井（1985, 1987, 1990, 1994）による「北海道高等植物目録（I～IV）」があり、よくカバーされている。これより小さな地域では十勝地方に関する「十勝植物誌」（横山 1951）、札幌市に関する「札幌の植物」（原 1992）・えりも町の「えりもの植物」（新版「えりもの植物」出版実行委員会 1999）があるほか、断片的なものが多い。市町村単位の植物相の情報収集に関しては、地元の自然史家のボランティアによるところが大きく、市町村史などにそれらの情報が掲載されることも多いが十分なものではないことが多い。しかし、最近では各地域で「郷土の再発見」や「再認識」ということが重視されつつあり、自然に関してもその対象となることが多く、報告書も刊行されている（例えば、三石町 1975, 1978, 幕別町 1997）。このような植物相調査は単なる目録作りにとどまらず、調査を通して各地の稀少種の現状に関する

情報の収集にもつなげていくことが可能である。

北海道上士幌町の植物相に関しては博物館が中心となって1992年度から1995年度の4年間にわたり組織的に調べられ、「上士幌町維管束植物目録」（滝田ら 1996）として1996年の博物館の研究報告にもすでに掲載されている。現地踏査と既存文献を合わせて751種（亜種・変種を除く）の高等植物が確認されている。しかし、その後の踏査により新たな種の確認があったので、補遺として報告する。

### 結果と考察

これまでの踏査により新たに39種が追加確認された（表1）。このうち、9種は帰化種または逸出種である。これらの種については人里周辺の踏査が不十分なために見落としが予想されることや、新たな帰化・逸出の機会がありうることから今後も追加される可能性が高いと思われる。カスミムグラは十勝三股周辺で最近になって急激に目立つようになった帰化植物である。また、ハマエンドウ・マルバトウキは本来海岸生であり、土砂等に混じって運搬されてきた可能性が高いと考えられる。ウラジロタデ・ミノゴメ・コウボウ・ヒメチチコグサ・カキドオシは発見された場所が人為的変を受けていることから、二次的に移入している

1) さっぽろ自然調査館 〒004-0052 札幌市厚別区厚別中央2条5丁目4-35-705 Sapporo Nature Research & Interpretation Office, 4-35-705, Atsubetsu-chuo 2-5, Atsubetsu-ku, Sapporo 004-0052, Japan. e-mail:chosakan@cho.co.jp

2) ひがし大雪博物館 〒080-1403 河東郡上士幌町糠平 Higashi Taisetsu Museum of Natural History, Nukabira, Kamishihoro-cho, Hokkaido 080-1403, Japan.

3) ひがし大雪博物館友の会 〒080-1403 河東郡上士幌町糠平 Higashi Taisetsu Naturalist Club, Nukabira, Kamishihoro-cho, Hokkaido 080-1403, Japan.

表1. 上士幌町高等植物目録への追加種

番号	種名	和科名	学名	稀少種	稀化	十勝植物誌	確認場所
1	エソヒメクラマゴケ	イワヒバ	<i>Selaginella helvetica</i>			新規	ニベソツ山
2	カラマツ	マツ	<i>Larix kaempferi</i>		●	新規	三股
3	バンクスマツ	マツ	<i>Pinus banksiana</i>		●	新規	三股
4	ミス	イラクサ	<i>Pilea hamanoi</i>			新規	幌加
6	ウラジロタデ	タデ	<i>Aconogonum weyrichii</i>				清水谷
6	クロバナハンショウヅル	キンボウゲ	<i>Clematis fusca</i>	IB			上士幌
7	ハルカラマツ	キンボウゲ	<i>Thalictrum baicalense</i>	II		新規	三股
8	エソシモツケ	バラ	<i>Spiraea media</i> var. <i>sericea</i>	IB			幌加
9	イタチハギ	マメ	<i>Amorpha fruticosa</i>		●	新規	糠平
10	ハマエンドウ	マメ	<i>Lathyrus japonicus</i>				清水谷
11	ハリエンジュ	マメ	<i>Robinia pseudoacacia</i>		●	新規	糠平
12	タチオランダゲンゲ	マメ	<i>Trifolium hybridum</i>		●		萩ヶ丘
13	ツタウルシ	ウルシ	<i>Rhus ambigua</i>				黒石平
14	アマチャツル	フリ	<i>Gynostemma pentaphyllum</i>				三股
15	エソミスダマソウ	アカバナ	<i>Circaea quadrivalvata</i>				航空公園
16	マルバドウキ	セリ	<i>Ligusticum hultenii</i>				糠平
17	ジャクジョウソウ	イチヤクソウ	<i>Monotropa hypopithys</i>			新規	ウベベサンケ山
18	コメツツシ	ツツシ	<i>Rhododendron tschonoskii</i>			新規	黒石平
19	ツルコケモモ	ツツシ	<i>Vaccinium oxycoccus</i>				東雲湖
20	エソイボタ	モクセイ	<i>Ligustrum tschonoskii</i> form. <i>glabrescens</i>			新規	糠平
21	クルマムグラ	アカネ	<i>Galium trifloriforme</i> var. <i>nipponicum</i>				三国峠
22	トゲナシムグラ	アカネ	<i>Galium mollugo</i>		●	新規	三股
23	オオキヌタソウ	アカネ	<i>Rubia chinensis</i> var. <i>glabrescens</i>			新規	幌加
24	ヒレハリソウ	ムラサキ	<i>Symphytum officinale</i>		●	新規	三股
25	カイジンドウ	シソ	<i>Ajuga ciliata</i> var. <i>villosior</i>	IB			上士幌
26	カキドオシ	シソ	<i>Glechoma hederacea</i> var. <i>grandis</i>				上士幌
27	オオマルバノホロシ	ナス	<i>Solanum megacarpum</i>				幌加
28	ヒメチヂコグサ	キク	<i>Gnaphalium uliginosum</i>				五の浜駐幸場
29	イヌカミツレ	キク	<i>Matricaria inodora</i>		●	新規	上士幌
30	ミヤマクロユリ	ユリ	<i>Fritillaria camtschaticensis</i> var. <i>alpina</i>				音更山
31	キバナアマナ	ユリ	<i>Gagea hutea</i>				糠平
32	オカスズメノヒエ	イグサ	<i>Luzula pallidula</i>			新規	三股
33	ミノゴメ	イネ	<i>Beckmannia syzigachne</i>				幌加
34	コウボウ	イネ	<i>Hierochloa bungeana</i>				三股
35	フォーリーガヤ	イネ	<i>Schizachne purpurascens</i>	IB		新規	幌加
36	ウタスゲ	カヤツリグサ	<i>Eriophorum vaginatum</i>				東雲湖
37	クシロヤガミスゲ	カヤツリグサ	<i>Carex ovalis</i>		●	新規	温泉山
38	イチヨウラン	ラン	<i>Dactyloctenium aegyptium</i>				温泉山
39	ミヤマチドリ	ラン	<i>Platanthera ophrydioides</i> var. <i>takedae</i>				西クマネシリ岳

※稀少種はレッドリスト(1996)に挙げられた種。IBおよびIIは絶滅危惧ランク。

可能性がある。

分布上興味深い種について、以下に生育地の特徴などを述べる。オオマルバノホロシは、幌加温泉の温泉水が湧出する付近に特異的に生育していた。幌加温泉は自然湧出泉であるので、もともと生育していたと考えられるが、人為的にできた裸地に進出している。温泉水特有の化学的成分に対し耐性があるものと思われる。ジャクジョウソウは日本海側に多いが、道東の太平洋側にはあまりないものと思われる(十勝植物誌には掲載されて

いない)。ウベベサンケ山と糠平で生育が確認された。ツタウルシも同様の分布をしているが、旧国鉄士幌線の線路脇で1個体が見つかった。また、レッドリスト(環境庁1997)に該当する稀少種が4種含まれた。クロバナハンショウヅル・カイジンドウはともに平野部のカシワ林伐採跡地に少数個体が確認されたが、農地化のために生育地は失われつつある。エソシモツケ・フォーリーガヤは岩塊地の草地にまばらに生育していた。

今回の追加により、上士幌町には790種の高等

植物の分布が確認された。十勝植物誌（横山1951）では967種を掲載しているが、この中には海岸や日高山脈にしか生育しないものも含まれていることから、上士幌町の植物相に関しては一部の種を除いて収録されたと思われる。しかし、今後も新たな確認があれば随時補足していくつもりである。

## 引用文献

- 原松次（1992）札幌の植物。154pp. 北大図書刊行会。札幌。
- 伊藤浩司・日野間彰・たくぎん総合研究所（1985）北海道高等植物目録Ⅰ。73pp. たくぎん総合研究所。札幌。
- 伊藤浩司・日野間彰・たくぎん総合研究所（1987）北海道高等植物目録Ⅳ。244pp. たくぎん総合研究所。札幌。
- 伊藤浩司・日野間彰・中井秀樹（1990）北海道高等植物目録Ⅱ。288pp. たくぎん総合研究所。札幌。
- 伊藤浩司・日野間彰・中井秀樹（1987）北海道高等植物目録Ⅲ。480pp. たくぎん総合研究所。札幌。
- 環境庁自然保護局野生生物課編（1997）植物版レッドリスト。80pp. 環境庁。
- 幕別町教育委員会（1997）幕別生きもの調査報告書。152pp.
- 新版「えりもの植物」出版実行委員会（1999）新版えりもの植物。400pp. えりも町教育委員会。
- 高橋誼（1975）蓬萊山の植物。28pp. 三石町教育委員会。
- 高橋誼（1978）みついしの植物。79pp. 三石町教育委員会。
- 滝田謙謙・川辺百樹・辻本涼子・牧田英男・丸山まさみ（1996）上士幌町維管束植物目録。上士幌町ひがし大雪博物館研究報告18：1-59。
- 我が国における保護上重要な植物種及び群落に関する研究委員会編（1989）我が国における保護上重要な植物種の現状。320pp. 日本自然保護協会。
- 鷲谷いづみ・矢原徹一（1996）保全生態学入門。pp66-68. 文一総合出版。
- 横山春男（1951）十勝植物誌。168pp. 帯広宮林局発行。帯広。

## Summary

In 1996, "Vascular plants in Kamishihoro" was reported by Takita et al. The report revealed that 751 species except intraspecific taxa were growing in Kamishihoro. However, as a result that the research was continued since then, unrecorded 39 species was discovered newly. These consisted of the plants growing in low density and the plants seemed to be carried by human. It is remarkable that *Rhus ambigua* and *Monotropa hypopithys* were found in this area, because these mainly grow in heavily snowy region. Planning to conserve the wild plants using these data, such as framing original Red Data Book and conservation area, is important as well as researching furthermore.